



ニュースレター

SDM NEWS



西島株式会社を訪問：社長（前列中央）と集合写真

12

2014年 月号

行事予定

2014年11月29日(土)、30日(日)

慶應SDM共催

Asia-Pacific Regional Space
Generation Workshop

@日吉キャンパス

<http://www.spacegeneration.org/index.php/en/home-news/news/1081-sgac-announces-the-first-edition-of-asia-pacific-regional-space-generation-workshop>

要事前登録

2014年12月9日(火)

「いい会社経営論～人間中心マネジメント論」
(未来型経営論第3回)

@日吉キャンパス

<http://www.sdm.keio.ac.jp/2014/11/18-144648.html>

要事前登録

2014年12月12日(金)

慶應SDM公開講座

ライフネット生命保険株式会社代表取締役会長 兼 CEO 出口 治明氏講演
「リーダーシップについて」

@日吉キャンパス

<http://www.sdm.keio.ac.jp/2014/12/12-131448.html>

要事前登録

2014年12月13日(土)

第3回未来デザイン会議プレゼン聴講募集
@日吉キャンパス

<http://www.sdm.keio.ac.jp/2014/12/13-084443.html>

要事前登録

2014年12月14日(日)

慶應SDM公開講座「幸せを育むポジティブ
ワークショップ(全3回)」

@日吉キャンパス

<http://www.sdm.keio.ac.jp/2014/10/13-163939.html>

要事前登録

2014年12月16日(火)

「いい会社を創る人材開発～フローで働きがいのある職場の人材育成」
(未来型経営論第4回)

@日吉キャンパス

<http://www.sdm.keio.ac.jp/2014/11/18-144648.html>

要事前登録

慶應義塾大学イベントカレンダーもご利用ください。
http://www.keio.ac.jp/ja/event/201412/201412_index.html

通算73号 2014年12月発行

SDM
System Design and Management

専任教員からのメッセージ

高度技術社会のための システムズエンジニアリング



慶應日吉キャンパスの美しく黄色に染まった銀杏並木の葉が散り始め、年の瀬が押し迫り、寒さの身にしみる季節となりました。2014年に慶應SDMが新しく取り組んだプロジェクトの一つが、MIT Press (マサチューセッツ工科大学出版局) から出版されたEngineering Systemsシリーズの本を慶應SDMの教員を中心に翻訳して慶應義塾大学出版会から出版したことです。まず、2014年2月に、そのシリーズの本「エンジニアリングシステムズ:複雑な技術社会において人間のニーズを満たす」(オリヴィエ・L・デ・ヴェック、ダニエル・ルース、クリストファー・L・マギー 著、春山真一郎 監訳、神武直彦、白坂成功、富田順子 訳)が出版され、2014年10月には、「デザイン・ストラクチャー・マトリクス DSM 複雑なシステムの可視化とマネジメント」(スティーブン・D・エッピンジャー、タイソン・R・ブラウニング 著、西村秀和 監訳、大富浩一、関研一 訳)が出版されました。このシリーズに統一して流れるコンセプトは、近年ますます複雑化してきている通信、交通、電力などの技術システムや社会システムにおいて、全体を見渡して調査、分析、検討、提案、設計をすることが大変重要であるという考えです。多くのシステムが互いに相互作用するようなSystem of Systemsの場合、個々のシステムの境界が明確でないことが多いため設計自体が難しく、またシステム全体を構築したり最適化したりすることも極めて困難です。また、そのような高度技術社会では、個々の技術や社会にかんする高度な専門知識が重要になりますが、そのような木(専門知識)に注目すればするほど森(システム全体)を見渡すことが困難になる傾向があり、現在の日本や世界はまさしくそのような状況にあるのではないかと思います。

そのような現状を打ち破るため、慶應SDMでは、このような出版、授業、研究等の活動を通じて森を見渡すことが出来る人材を育てています。特に、システム全体を見渡したアーキテクチャ設計・検証、イノベティブなアイデアを創り出すデザイン思考、さらにそれらを実行するためのマネジメントに重点を置いて教育研究を続けています。

SDM研究科教授 春山 真一郎

最近のニュース

TOPIC

1

慶應SDM公開講座「幸せを育むポジティブワークショップ」



ポジティブワークショップの様子

慶應SDMヒューマンラボにおける幸福学の研究成果を人々の幸福度向上に活かすための試みとして、2014年10月13日(月)より、慶應SDM公開講座「幸せを育むポジティブワークショップ」を開始した。前野教授の研究成果である幸せの4因子(自己実現と成長、つながりと感謝、前向きと楽観、独立とマイペース)を強化することによって各人の幸福度を向上するための試みとして、夢を語り合ったり、細かいことを気にしないワークを行ったり、スキットを行ったりした。このワークショップの成果はポジティブ心理学研究としてまとめ、国際学会で発表する予定である。

TOPIC 2 恒例のオープンKiDS (2014年度第3回) を開催



ワークショップの様子



イノベティブデザインセンターでは、2014年11月16日(日)に、慶應イノベティブデザインスクール (OPEN KiDS) 2014年度第3回公開ワークショップ「かけ算のデザイン、三方一兩得のデザイン」を開催した。このたびは、

ゲスト講師に廣田尚子氏(女子美術大学教授・ヒロタデザインスタジオマネージングディレクター)をお迎えし、前野隆司(SDM研究科委員長・教授)、保井俊之(SDM研究科特別招聘教授)とともにワークショップを実施した。何らかの

問題解決をする際に、2つないしは3つの課題を掛け合わせるとそれらを補完し合うデザインが可能であることを、100名近い参加者が体験した。

TOPIC 3 「未来型経営論～人間中心のマネジメント、リーダーシップ」を開催

慶應SDMヒューマンラボでは、一般社団法人マインドフルリーダーシップインスティテュート代表、株式会社ブラウンシュガーファースト副社長、株式会社ライフスタイルプロデュース社長の荻野淳也氏をお迎えして、「未来型経営論～人間中心のマネジメント、リーダーシップ」という公開講座シリーズを開催した。第1回: 2014年11月18日(火)「未来型経営論～人間中心のマネジメント、リーダーシップ」、第2回: 11月25日(火)「今後のリーダーシップのあり方～マインドフルリーダーシップ」、第3回: 12月9日(火)「いい会社経営論～人間中心マネジメント論」、第4回: 12月16日(火)「いい会社を創る人材開発～フローで働きがいのある職場の人材育成」、第5回: 2015年1月6日(火)「組織を変革するリーダーへの変容～人を幸せにする会社、リーダーのあり方」と題し、開催中である。



講演の様子

TOPIC 4 西島株式会社を訪問



勤続50年・60年の表彰状



勤続60年の兵頭氏(中央奥右側)

2014年11月10日(月)に、定年のない企業、西島株式会社(愛知県豊橋市)を訪問し、高齢でも現役として働く技術者がいる現場を見学した。この見学会は、毎年、「経営・財務戦略論」の授業の一環で行なわれているが、今年は吉田篤生特別招聘教授、前野隆司教授・研究科委員長、当麻哲哉准教授・研究科委員

長補佐の3名の教員が学生29名を引率して、研究科行事として開催された。

日吉を貸切バスで出発した一行は、往路の車内で会社の事前情報を学びながら昼過ぎに到着、社員食堂での心のこもった昼食ののち、工場での現場見学を行った。その後、先代から事業を引き継いだばかり

の4代目新社長、西島豊氏が時間を惜しまず学生たちとのディスカッションに加わってくださり、これからの日本に必要な経営モデルとなり得る西島株式会社から、企業経営のあり方、企業文化の作り方、社員とその家族の労働に対する向き合い方などについて学ぶ貴重な体験となった。

ラボ・センター紹介

国際政治経済システムラボ

(Laboratory for International Politico-Economic Systems)

代表: 谷口智彦

専門分野: 現代史、政治経済システム、国際関係

メンバー: 狼嘉彰、日比谷孟俊(いずれも元SDM教授)、川口卓ほか多数



ゼミ風景

マーク・ゲイン『ニッポン日記』を読んでいます。著者ゲインは、敗戦と同時に日本へ乗り込んだ外国特派員の一人。シカゴ・サン紙からの特派でした。左傾思想を疑われ、そんな人の常かカナダに移り同地で記者生活を全うしました。先般カナダから来た記者にマーク・ゲインを知っているか尋ねてみたら、「自分にとってヒーローの一人」だと即座に答えが返ってきて、少なくとも彼国では忘れられていない人と知りました。

占領終了間際に筑摩書房から上下二巻本で現れ、洛陽の紙価を高からしめた(紙が貴重だったからこれは文字通り)一大ベストセラーです。日本国憲法制定経緯は、同書を通じて初めて国民多数の知るところとなりました。農地改革や財閥解体、はたまた腕一本で成り上がり宮家や総司令部に太い人脈を築いたと思いきや、次の瞬間失墜する動乱型起業家の横顔など、達意の名訳とあいまち巻措く能わざる面白さです。

読書会参加者は狼、日比谷の両大家から学卒直入の院生まで。書かれた当時を知る者、よく推察できる者、まるで異世界の話としか思えない者と、多岐に亘ります。知らない固有名詞や、解釈に迷う事象に行き当たる度、それは何か、どんな話か徹底的にテキストを考証するのがスタイル。

神は細部に宿り給うといひます。こうした手法が炙り出す敗戦ニッポンのリアリティに、参加者は息を呑み、嘆息として吐き出します。お分かりでしょう。これは現行制度をその揺籃期に遡り、システムの由来を訪ねる遡上の旅なのです。私はその第一観察者として、毎回至福のひと時を送ります。筑摩は戦後70年記念企画として、同書再販を決めました。決断を促したのは、このラボとそのささやかな営みでした。

(谷口智彦)



ゼミ集合写真



ニッポン日記



慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科附属 SDM 研究所

〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉 4-1-1

Tel: 045-564-2518 Fax: 045-562-3502 E-mail: sdm@info.keio.ac.jp

慶應義塾大学 協生館

SDM
System Design and Management